

法人名 特定非営利活動法人 スコップ

事業計画書

<p>事業名</p>	<p>【keep step】キミと一緒に育つ場所 「学校に行かなくてもみんなで給食が食べられる」事業 ※簡潔で分かりやすい名称を付けてください。</p>
<p>種類</p>	<p>(1) SDGs 推進事業 (<input checked="" type="checkbox"/> 人間 豊かさ 地球 平和 パートナシップ) (2) 自立促進事業 (<input type="checkbox"/> 人間 豊かさ 地球 平和 パートナシップ)</p>
<p>1. 事業の目的</p>	<p>Keep step の目的は、応用行動分析学に基づき、不登校児自身が自分の生活をデザインして、再構築することである。具体的な支援は、①近況確認、②居場所作り（飲食提供含む）、③車による送迎、④家族支援、を通して、不登校児に生活・社会体験、学習サポートを提供する。</p> <p>【活動を開始した経緯】 私たちは、勤務していた放課後等デイサービス事業（障害児の通所サービスである）の中で、不登校の多数の児童と出会った。不登校児の中には、家庭環境に課題を抱えているケースも多く、しっかり食事を食べるという習慣を持たない児童も多い。そのため、2020 年 2 月から子ども食堂活動を続けてきた市民活動団体スコップを、2023 年 1 月、NPO として法人化した。さらに、NPO スコップの経営安定化を目的に合同会社スコップを設立。2023 年 4 月、不登校と発達障害児に特化した児童福祉事業所カラフルを開業した。</p> <p>【現在の活動状況】 不登校児を午前中からの受入れ、一緒に手料理を作り食べる活動に取り組んでいる。現在、開始から 2 か月足らずではあるが、<u>毎日、4 名程度の参加者（うち、1 名非課税世帯、1 名生活保護世帯）がある。</u>また、希望者には、LINE で個別に連絡を取り、その日の気分に応じ、車での送迎も行っている。食費をはじめとする運営費は、寄付と事業所からの持ち出しで賄っており、運営は苦しい。スコップの活動以外へは、全く外出しない児童も多く、貴重な場となっている。<u>タブレット等を用いた学習時間も、児童に合わせ提供し、進捗に応じた学習支援を行っている。</u></p> <p>無料で受け付けている「なんでも相談」では、<u>不登校児の親からの相談を中心に、月に 1~2 件ほどの相談がある。</u>活動を知った参加者が、新しい不登校児の親を紹介するという口コミで活動が広がっている。</p> <p>月 2 回開催している ICT を使った無料の学習支援教室にも、不登校児や親の参加が 10 名以上あり、<u>今後も、参加者は増える見込みである。</u></p>

2. 事業の内容

(1) 近況確認

月～土、8:00～20:00 対応。主に LINE を使い、体調や気分、食欲や睡眠のヒアリングを行う。また、一日の予定や過ごし方について、気軽なやり取りから生活状況に関する情報を把握する。やり取りの時間や頻度、内容については、応用行動分析学に基づき、良好な反応が得られる時間帯を定め、徐々に固定化を図り、生活リズムの一環となるよう設計する。

(2) 居場所作り

児童福祉事業所カラフル（埼玉県北葛飾郡松伏町ゆめみ野5丁目9-5）：平日 10:00～13:00、無償スタッフ1名＋ボランティア2名体制で、入退場自由で過ごすことができる。カラフルでは、フリードリンクを用意しており、好きなものを好きなだけ選んで飲むことができる。また、希望者には、手作り昼食を提供することができる。昼食は、参加者も一緒に買い物や調理を行い、職員も食す。食を通した、他者との共有体験を通じて、社会体験を積み重ねていくことができるようにする。

学習支援教室（りそな YOUTHBASE・埼玉県越谷市千間台西1丁目5-17）：月2/4日曜日、10:00～14:00、入退場自由。

(3) 送迎サービス

参加者の希望と状況、必要度に応じ、自宅⇄カラフル、カラフル⇄学習支援教室、自宅⇄学習支援教室を職員が車で送迎する。車両（他事業兼務：軽自動車2台、ファミリーバン1台所有）を使い、職員が運転する。

(4) 家族支援

LINE での生活状況確認や月1回程度の面談を通して、参加児の自宅での様子を含め、ヒアリングを行う。また、親の生活状況にも気を配り、仕事のストレスや困窮状況など、状況によっては、他の支援機関とも連携を図りながら支援を展開する。

3. 実施計画

本申請時点で、すでに事業内容で上げた、①近況確認、②居場所作り、③送迎サービス、④家族支援、の4サービスは、開始されている。そのため、**実施計画では、まだ繋がることのできていない不登校児を掘り起こすことを重点化する。**

(1) 活動情報の広報と参加者の募集

すでに不登校児支援を行っている他団体と連携を図り、宣伝広報に協力を依頼する。越谷市・松伏町役場の後援を取得する。役所の子育て支援課、社会福祉協議会の情報発信ラックにチラシを置いて頂けるよう依頼する。すでに、連携している小学校等に開催情報を伝える。

(2) 参加者の生活状況把握、アセスメントとモニタリング

不登校児の生育歴や現在の生活について、本人からのヒアリングを中心に情報を収集する。応用行動分析学の視点から、参加児の行動にフォーカスを当てる。**応用行動分析学に基づく支援では、「自分自身が増やして行きたいと感じる行動を特定（標的行動）し、その行動の発生頻度を増加させる（強化）。また、自分自身が課題だと感じている行動を特定し、その行動を他の行動に変える（代償行動）、もしくは、発生回数を減少させる（消去）」を行う。**

(3) 活動の様子の情報発信

個人情報に該当しない情報（参加者数、活動内容、費用等）は、週1回のペースで当団体HPのブログにて写真とともに掲載する。

(4) 事業成果評価（社会的インパクト、アウトカム評価）

個人情報に触れないよう配慮し、応用行動分析学に基づくデータ・グラフを当団体HPで公表する。その他、HPのアクセス数解析、Google マップのアナリティクス、1児童あたりの支援コスト計算、参加者へのインタビューに対する質的評価。

〇スケジュール

時期	
7月	(1)チラシ作成、関係機関に連絡配布 役所、社会福祉協議会、学校、教育センターへご挨拶 (2)参加児に対し、随時、アセスメントを実施し、記録を作成する。 (3)参加を検討する材料を提供できるよう、情報をアップする。
8月	(1)(2)(3)7月の内容を継続実施。
9月	(1)(2)(3)7月の内容を継続実施。 (1)9月13日（金）：神社でまますまマルシェに出店し、広報活動を行う。
10月	(1)(2)(3)7月の内容を継続実施。 (1)10月23日（日）：ななサポ（越谷市社会福祉協議会主催イベント）に出店し、広報活動を行う。 (3)事業の中期まとめレポートを作成し、HPにアップする。
11月	(1)(2)(3)7月の内容を継続実施。
12月	(1)(2)(3)7月の内容を継続実施。
1月	(1)(2)(3)7月の内容を継続実施。 (4)参加者データの取りまとめ、分析、レポート作成。参加者に対するインタビュー実施。

	<p>2月 (1)(2)(3)7月の内容を継続実施。 (4)最終事業評価レポート完成（実施費用、課題、今後の活動に活かすこと、支援内容の見直し等）、HPに掲載。</p>
<p>4. 実施体制</p>	<p>1) プロジェクト・リーダー：松永乃吏子（社会福祉士、作業療法士、保育士） 2) 実行メンバー：佐久間仁美（児童相談員）、池田将人（調理師） 今井隆一（介護福祉士） 3) 経理責任者：荻原 朋佳（システムエンジニア） 4) 広報責任者：近森 貴裕（作業療法士、介護支援専門員） 小池 祐士（作業療法士、大学助教授） 5) アウトカム評価担当者：野村 健太（作業療法士、大学研究員） 内藤 大佑（作業療法士）、小池 祐士</p>
<p>5. 事業の効果</p>	<p>I：参加児童への効果 定期的な外出と食事により、生活リズムが改善される。また、運動や学習時間が延長する。発話、コミュニケーションなどの対人交流機会の拡大。最終的には、自己肯定感の向上や不安、焦燥感の軽減が見込める。</p> <p>II：参加家族への効果 子どもが前向きに外出する姿を見ることで、閉塞感や孤立感を軽減することができる。また、同じように子どもの不登校に悩む家族と繋がることで、悩みや経験の共有ができる。</p> <p>III：地域への効果 不登校が特別なことではなく、選択肢の1つであるという認識が啓発される。また、学校という環境に馴染めないが、強いこだわりや得意を持つ児童が高度専門職人材に繋がる。長期、活動を続けていく中で、卒業生がボランティアやメンターとして参加し、子どもたちに多様なロールモデルとなる。</p>
<p>6. 今後どのように事業を継続し発展させるか ※自立促進事業のみ</p>	

◎応募の際に本予算書で計上しなかった経費項目は、事業実施時に支出が生じたとしても対象経費とはなりません。

法人名 特定非営利活動法人ス Copp

事業収支予算書

1 収入の部

項 目	予算額 (円)	積算内訳
助成希望額 (千円未満切り捨て)	500,000	
自己資金	124,200	他プロジェクトの企業協賛型子ども食堂・参加費：4,200 円 関連団体（合同会社ス Copp）からの寄付：120,000 円
事業実施による収入等	0	0
その他	0	0
合 計	624,200	Ⓐ624,200

2 支出の部

項 目	予算額 (円)	積算内訳
会場費		
通信運搬費	18,200	①通信費（sim→4G+かけ放題）：2,600 円×7 か月=18,200 円
旅費交通費	14,000	②駐車料金：2,000 円/月×7 か月=14,000 円
消耗品費	308,000	③食材購入費：40,000 円/月×7 か月=280,000 円 ④ガソリン代：4,000 円/月×7 か月=28,000 円
備品費	0	
委託費	4,000	⑤チラシ（100 部）2,000 円×2 種=4,000 円
謝金	280,000	⑥ボランティア謝金：1,000 円×2 人×20 日/月×7 か月=280,000 円

人件費		
その他		
合 計（事業費）	624,200	㊦624,200

収入の部の合計（㊤）＝支出の部の合計（㊦）